

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491200200	
法人名	株式会社宮城登米広域介護サービス	
事業所名	グループホーム憩いの里かがの	
所在地	宮城県登米市中田町石森字加賀野2丁目26番地2	
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 20 日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会	
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階	
訪問調査日	令和 2 年 11 月 10 日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街の一角にあり、ウッドデッキが道路に面し、犬の散歩等の地域の方々と挨拶を交わし、犬と触れ合ったりしている。コロナ禍で面会の自粛をお願いしているが、特別な事情の場合にウッドデッキでソーシャルディスタンスを保ち、面会も対応している。また、近隣の方々にホームの畑づくりのお手伝いや指導を受けたりしております。特に、ホームの周りの防災協力委員の方々に温かく見守られております。また、共用型デイサービス事業では、認知症ケアのノウハウを提供して地域に貢献しております。今年度は介護度が高い方3名の退所者があり、平均介護度が下がり、これまでのケアの見直しが必要だと感じております。現在、個々人が望む生活を捉えて役割づくりや、馴染みの関係づくりに重点を置き、ご家族や主治医との情報共有に努め、音楽を取り入れた回想法等による認知症進行予防、レクリエーション等による転倒予防に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三陸自動車道の登米インターから佐沼方面に車で10分程のところ「グループホーム憩いの里かがの」がある。南三陸町から移住者が急激に増加賀野町内が一変した。祭りなど地域の行事はないが、日常に地域住民との触れ合いが多く、避難訓練の協力などホームへの理解がある。入居者の多くは地域の方で、共用型サービスの利用者と共に生活を送っている。目標達成計画に掲げた「ユニット理念の作成」は、職員間でアンケートを取り、覚えやすい内容を掲げ、ケアに努めている。コロナ禍により、外での交流や面会を自粛していたが、ホールの窓越しやウッドデッキに出る面会などを工夫し、入居者、家族の安心に繋げている。澄んだ空気や自然豊かな環境で過ごす入居者をケアする職員は、日々より良いケアに向けた支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム憩いの里かがの)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度末にサービス会議において話し合い、見直しを行っている。会議開催時に確認している。	職員からアンケートを取り、覚えやすいユニット理念「地域とのふれあいを大切に・やさしく笑顔で」を作った。日常の地域住民との交流を大切にしたり、入居者との距離を保ち尊重した支援に取り組むとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災協力委員として、近接する地域の方に協力をお願いし、ホットラインに登録している。また、畑作りを手伝って頂いている。	地域住民が散歩途中に立ち寄ったり、ウッドデッキ越しに入居者と話をする姿は日常の光景である。旬の野菜や渋柿の差し入れがあり干し柿にした。ネギや野菜の苗をもらいホームの畑で育てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型のデイサービス事業を行っており、現在登録者6名。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況と活動状況を報告。福祉事務所や包括支援センター職員から意見や感想を頂戴している。	行政他のメンバーで定期的に開催している。感染症対策や電柱の配線、防犯灯等の情報があり、関係機関に連絡し対応している。4月以降はホームの状況を書面でメンバーに報告し意見を募っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修開催等の情報が適宜メールで知らせがある。日常的に相談ができる関係ができている。	事業所の更新事務や介護保険の更新手続きで福祉事務所に出向いている。職員の勤務体制や事故報告、入居者の利用に関する相談をし助言を得るなどしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	保安のため、夕方から翌朝まで施錠しているが、それ以外は解錠している。スピーチロック等、身体拘束の研修を行っている。	年4回、全職員で身体拘束廃止委員会を開催している。資料に基づき言葉遣いや虐待の理解と未然防止について等、テーマごとである。日常の生活で常に歩き回る入居者には適宜声をかけ、お茶を進めたりソファにかけるよう支援している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の芽のアンケートの実施や身体拘束と共に研修内容に盛り込んでいる。	日常のケアを振り返り、アンケートに記入し、集計結果を会議で検討している。職員と入居者の距離が近づき、行動や会話が慣れ合いになりがちである。職員間で指摘しあい、虐待を未然に防ぐよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	通常、法人全体の研修会で研修を行っている。また、近い事例があった場合に、管理者から説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、納得頂けるように説明し、時には入所前にご家族と事前打ち合わせを行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に近況を伝える際にご意見等を伺っている。必要なものについては、職員と情報を共有している。	面会時や計画書の見直し時期に家族から意見要望を聞いている。通院時に日常の入居者の様子がわからないので「職員も付き添ってほしい」や「外出をさせてほしい」などの要望があり、応じる支援に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	サービス会議等での意見を法人全体の管理者会議で発表したり、また管理者が社長と直接相談ができる体制になっている。	消耗品の購入など日常的に要望があり、その都度管理者が対応している。初任者研修受講料が法人負担であったり、資格手当が大幅に上がるなど法人は職員報酬に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施し、賞与に反映。また、年1回、社員が直接社長に自己申告書に意見を記載して提出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育研修の部署があり、社内研修の企画と実施をになっている。また、新卒者の教育担当職員を配置し、2年計画で教育指導を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	登米市介護保険事業者連絡協議会入所施設部会の役員になっており、情報交換や研修の企画実施を担っている。	研修目的とした登米市入所部会主催の研修に参加した。訪問看護ステーションの週1回の来訪や訪問在宅診療の医師と情報を図り相談できる状況にある。グループホーム北部連絡会と連携をとっている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実態調査を実施。入居決定後に入居事前打ち合わせの際に、不安や要望等を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に実態調査を実施。入居決定後に入居事前打ち合わせの際に、不安や要望等を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前、心身の状況や生活状況、家族状況を含めて話し合い、本人にとって必要な生活環境や他のケアサービスについて、担当ケアマネージャーとの情報交換を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や炊事等、本人が得意としていること、できることやできる可能性があることを一緒に行う中で、可能性を追求している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	心身の状況や生活状況を伝え、家族としてできる役割(会食や散歩等)、関わりを一緒に考える様にしている。また、「かがのだより」や写真の掲示等で、実際の生活の様子をお知らせしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に電話し、また散歩途中にご家族が来所されたり、職場の同僚だった方が面会に来て下さる。	デイサービス利用の方や立ち寄る近所の方々と新たな馴染みの関係ができています。数ヶ月に1回の仕事仲間の来訪時は居室で話をする。記念日に家族が来て居室で一緒に食事をするなど関係性を大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前中、通所利用の方々と体操やレクリエーション、午睡後におやつ後の談話やぬりえ等を行い、職員が間に入り、代弁や会話の仲介を行って、孤立しないようにしている。午睡以外は、ほぼ全員がホールで過ごしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者のご家族が、現在も畑の耕耘や野菜作りの助言をして下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	新聞の読み上げや談話から生活背景や価値観が垣間見え、それをフィードバックして関係作りを行う。その情報は、職員で共有する。	拘りが強い方の思いを汲んで、洗濯物を干す、たたむの一連の作業をもらう。映画を見たいや歌が聞きたいには映像を流し、時代背景など思い出話をする。入居者の思いやできることを見極めケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活の様子や会話の内容等をご家族へ伝えることで得られる情報、またご家族の知らない情報等、面会時にご家族とできる限り面談して情報の共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康状態、食事や水分量、また排泄状況等を確認すると共に、表情や行動を観察しながら把握に努め、必要に応じて主治医や訪問看護師に相談している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に全職員から、モニタリングした内容を提出してもらい、それをとりまとめて話し合いを行い、計画に反映している。	1～2か月に1回職員から気づきを募りモニタリングを行い、計画作成担当者が作成している。「健康で出来ることを支援して」「外出や散歩」を望む家族の要望にバイタルチェックや役割の支援等を盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況、また主治医やご家族からの意向等を介護記録・支援記録に記載している。必要な内容については、朝夕の申し送り、また抜粋したものを会議で話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の事情により通院介助や外泊の送迎、また施設内での点滴や処置等、主治医、訪看と連携しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	犬の散歩やご近所のお子さんが立ち寄って下さる。また、近隣6軒の防災協力委員の方々と日々挨拶を交わしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診介助依頼されている方、在宅診療の方以外のご家族には、バイタル表や変化を口答若しくは文書で、医師に相談してもらうようにしている。	かかりつけ医に家族付き添いで通院している入居者が多い。家族が付き添えない方には近くの病院を紹介し職員が付き添っている。週1回訪問看護師が来訪し、健康チェックや点滴、処置を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	登米市訪問看護ステーションと契約、毎週水曜日に診ていただいている。その際、受診時の情報やその経過を報告し、また医療面に関する相談助言を頂いている。時に看護師から主治医へ直接連絡し、指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医師への情報提供、また退院時のカンファレンスに出席している。また、その後の経過についてご家族と情報を共有しながら医療機関との関係づくりに努めている。入院中は、面会や洗濯物の入れ替え等も協力している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、医療職不在の体制のため、医療行為が発生した場合、施設でできることを説明し、看取りを行う体制がないこと、また状況に応じて生活について相談しながら最善策を共に考えるようにしている。現在、特養へ入所申込をしている方が1名おられる。	入居時に成文化した「重度化した場合における(看取り)について」を説明している。医療行為を必要とした場合に看護師不在のため看取り体制が難しいことや職員の対応に自信がない。介護度3以上や退院後の日常動作レベル等を考慮し判断している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の確認作業と連絡方法等については、周知している。その他、訪問看護師が来所時に助言指導を頂いている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の8名の方に防災協力員として了承を得、自動通報装置に登録、火災時は自動で連絡する体制があり、合同の訓練を毎年実施している。	夜間想定訓練を1回実施している。夜勤の動きが防災協力員の協力もあり5分以内に避難終了できた。自動通報装置に地域住民の連絡先が登録してある。他に連絡協議会の合同訓練に参加している。	県のガイドラインが求める年2回以上の訓練を実施し、入居者の身を守ることを前提に、避難する意識を持ち、安心した生活支援をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待の芽アンケートの実施、不適切な言葉遣い等の研修を行っている、また一人ひとりの性格や価値観、症状等を理解し、感情の動きに応じたコミュニケーション方法話し合い、理念に沿ったケアの実現を目指している。	入居者のプライドや恥じらいを守る事を前提に、入浴時は同性介助に応じている。話題が逸れ、他入居者が否定しても職員は否定しないなど、入居者個々の特徴を把握し、尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話から、思いやこだわりを知ることがあり、個々の性格に応じてすぐに行動に移したり、内向的な方には一緒に決めたり対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中は認知症進行予防、転倒予防等の体操を中心に実施し、進行については利用者の方々の意見を伺ったりして進めている。また、自室で手芸を楽しむ方、ウッドで日光浴、近隣を散歩したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等の衣類を一緒に選んだり、鏡の前で整容の手伝いをしている。また、髪型もこだわりや生活習慣に応じて理美容院を定期的に利用している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや味付け、配膳の準備や下膳、また「いただきます」の号令等、できることをそれぞれ分担して行っている。	栄養士が献立を作り、食材はスーパーで購入し届けてもらう。近所から届く野菜やホームの畑のネギ、白菜等を調理する。誕生日は好きな刺身やケーキなどで祝う。郷土食のハットは入居者が好んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人のデイサービスの栄養士が作成した献立に従い、個々に応じた調理をしている。また、1日の水分量を把握すると共に嗜好に応じてコーヒーやお茶等を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや口腔清拭、義歯の洗浄を個々の能力に応じて介助している。現在、4名の方が予防歯科医院に通院しており、受診時の指導内容等を他のご利用者に活用して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を主とし、排泄チェック表から個別の排泄周期に基づき、また表情や仕草からサインを導き、排泄の支援を行っている。	排泄チェック表で、排泄物の内容や排便、排尿の有無を確認している。自立している方が多いが時間での誘導や顔色、表情などのサインから随時誘導する等、個別の対応をしている。昼夜ほぼ同じ対応である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期に応じて、できる限り下剤に頼らない自然排便を目指している。また、随時医師と相談して下剤の調整を行い、水分量の把握や運動等に配慮している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	予定は組んでいるが、レクリエーションに夢中になっていたり、気分が乗らない場合は、日時をずらしたり、また認識が困難な方は、誘導役介助役と職員間で連携して気持ちよく入浴できるようにしている。	週2～3回平均で時間や湯温度、1番風呂は希望に応じている。着脱するだけで1時間くらいかかる方もいる。拒否気味の方には無理強いせず時間や職員を代え対応している。季節の菖蒲やゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンが崩れない限り、気分に応じて自室や小上がりの畳等で休息したり、食事時間や入浴時間をずらしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容および副作用を周知し、表情や行動、生活状況の変化等の観察に努め、状況を主治医へ報告相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事や食事の準備、洗濯物干しやたたみ方等、能力に応じて行っている。また、唱歌や歌謡曲等、昔の映像を流し、楽しんでいただくと共に入居者間話題になるように働き掛けしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じて、ウッドデッキ等へお誘いし、そのまま周囲を散策するときもある。また、買い物や理髪に出かけたり、ご家族と一緒に散歩に行かれる方もいる。	午前中はアクティビティに時間が取られ、外出の時間が取れないことが多い。ウッドデッキでお茶を飲みながら、近所の方とお喋りをしたりしている。靴やほしいものがあると買い物に行くこともある。家族と通院したり、外泊をする方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解の上、少額の現金を所持している方が1名おります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、その都度対応している。面会の自粛の関係で、遠方ご家族には、預かり金関係書類を郵送し、一緒に近況をお伝えしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	童謡や唱歌のBGM流し、テレビに撮影した写真のスライドショーを写したり、それぞれが楽しく過ごせる様にしている。また、室温の管理や室内の明るさは、ホールの活動内容に応じて変える工夫している。	ホールは共用デイサービス利用者と一緒にゲームやリハビリ体操、食事をする楽しい場となっている。壁には紅葉をモチーフに貼り絵を作り秋の雰囲気を出している。外気が心地よく午前中は窓を開けていることが多い。廊下にあるソファは入居者の寛ぐ場である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活室で過ごす方がほとんどで、それぞれ居場所ができています。また、時間毎に居場所を変えている方もおり、その時々表情や仕草から、ベターな居場所や関わり方を工夫している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの物を持ち込んだり、家族との写真やぬりえ等の作品を掲示している。また、じゅうたんを引き、茶の間になっている方もおられる。	ベッドや椅子、テーブル、整理ダンス、エアコン、カーテンが設えてある。テレビや趣味の木目込み人形、水墨画を飾っている。家族写真や有名人の切り抜きを眺めている等、思い思いの部屋で過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じ、トイレの近くや視側空間無視の症状や見守り等のために居室を配置したり、一息付けるようにベンチを設置している。一人ひとりの可能性を引き出すように、言動や行動を注意深く観察している。		